

最新機器と高度な技術が支える 内視鏡検査と日帰り手術

ただともひろ胃腸科肛門科 院長 多田智裕

聞き手 本誌編集人 谷野勝之 (医業経営コンサルタント)

さいたま市にある医療モール武蔵浦和メディカルセンター。その一角にあるのが「ただともひろ胃腸科肛門科」だ。経鼻胃内視鏡検査、大腸内視鏡検査、痔の日帰り手術に特化し、多くの患者を集める。開業2年でありながら、月350件の内視鏡検査と月70件の日帰り手術を行う。多田智裕院長に専門クリニックのコンセプトをうかがった。



月350件の内視鏡検査 月70件の日帰り手術を実施

——クリニックモールでの開業だったわけですが、その経緯からうかがわせてください。

多田 この武蔵浦和メディカルセンター（クリニックモール）は、2006年7月に7つのクリニックが同時オープンしました（現在は8施設）。もともとこのモールの企画は、皮膚科や眼科、小児科、泌尿器科、内科であれば神経内科や胃腸科など、専門に特化した診療所を集めたいというものでした。私自身も自分が開業するならば、自分の専門を生かしたいと考えていましたので、そんなときにこのお話があり、すぐに開業を決めたのです。

——外来患者数や検査、手術の件数はどのようになっていますか。

多田 胃と大腸の内視鏡検査が1日15件、月350件弱です。痔の日帰り手術は月60～70件程度で、外来患者は1日50～60人といったと

ころです。

ここは住宅地でもありますので一般外来も必要です。ただ外来といっても胃腸科・肛門科の患者さんです。そういう意味では、かかりつけ医のようにいろんな疾患を診るのとは違い、専門分野に集中できるのはよかったです。

——風邪の患者さんなどは来院されませんか。

多田 他の内科や小児科がモール内にありますので、そちらにかかっているのだと思います。先般もインフルエンザのキットを3本もらいましたが結局、使いませんでした。

——スタッフの数は。

多田 看護師8名、事務5名です。医師は当初、私1人でスタートしましたが、すぐに非常勤の医師が必要となり、いまは6人の方に大学病院等から来てもらっています。常時2名が診察室と内視鏡をカバーする体制です。

——胃や大腸の内視鏡検査と痔の日帰り手術などの肛門科が中心の

クリニックですが、すぐに軌道に乗れたのですね。モールの効果もあったのでしょうか。

多田 モールといっても、それぞれ独立した診療所同士ですから、お互いが切磋琢磨して刺激し合い、いい意味での競争ができています。

クリニックモールで、よく誤解されるのが、安く費用を抑えられると思っている人がいることです。実際にはそのようなことはなくて、賃料も安くなるわけではありません。ただ、開業の広告費に100万円かけるのであれば、同じ額で7件が一緒になれば700万円使えることになりますので、その分、広告効果の高いものが可能になるということです。

最新機器や院内レイアウトを徹底的にこだわる

——内視鏡の機器なども最新のものをそろえているようですが、設備投資もかなりかかったのでは

- 最新機器や院長のこだわり部分に集中投資
- 無痛や快適などのプラスアルファ要素を重視
- 圧倒的な差別化のため、常に最新情報をチェック

うね。

多田 胃内視鏡は経鼻胃内視鏡を使用していて、従来の口から入れるタイプと違って、患者さんは吐き気を催すことはありません。その当時で一番いいものを買いました。1日10件は内視鏡検査をしないと損益ラインを超えません。その件数を行うとなると、一般のクリニックではかなりハードルが高いと思います。

それなりに費用を抑えようと思えばできるのですが、そういう考え方よりも、専門特化しているわけですから、より多く機器を使って回収するという考え方が重要だと思います。ワンランク落とせば半額で済むわけですけど、そうしていたら今のような状況にはなっていなかったと思います。専門の部分にはお金をかけるべきだと思います。

——広さも60坪というスペースでの開業でしたが。

多田 60坪といっても、新築のビルということで真四角の敷地で押さえることができました。そういう意味では普通のクリニックよりはうまく使えていると思います。それと、レイアウトも患者とスタッフの動線を分けることができました。診察室が2つと手術室、内視鏡検査室に回復室が5床ありますが、1日60名の外来患者と、内視鏡検査15名は余裕でできる広さです。(次頁平面図参照)

とくにこだわったのはトイレです。大腸内視鏡検査を行いますので、トイレと待合室が離れていると患者さんは大変です。下剤を使いますので扉を開けたらすぐにトイレという配置にしないと、10メ

ートル離れただけでも漏らしてしまうことがあります。なおかつ、広さも余裕を持ってつくりたいといけません。当然、数も1つや2つだけだと不足しますので5つあります。効率を考えて、よく水回りを1か所に固めることが多いのですが、それよりも機能的で使いやすく、患者の利便性のよさを優先したのです。

最新の機器や内装・レイアウトにしても、それが自分の判断で決められる。それが開業のおもしろさでもあります。

——当初から最新の高額機器を導入されましたが、患者が来るという自信をお持ちだったのですね。

多田 当初は内視鏡検査が5~6件からのスタートでしたが、その後は口コミなどで広がっていきます。もともと1日15件くらいは可能だと考えていました。

また、この近隣には内視鏡検査を行う施設も少なく、患者さんは都内まで検査を受けに行っていた地域でした。

——患者さんは広範囲のところから来られているようですね。

多田 もちろん、8割はこの周辺地域になりますが、全国から来ていただいています。

周辺といってもさいたま市内を中心に

大宮、越谷、戸田、蕨など、かかりつけ医の診療圏のように半径何キロではなく、電車で来られる範囲になります。

——診療圏が大きくなるのは、専門クリニックの特徴的なところで

多田 診療所の場合、開業のコンセプトとして、大きく分けて2つあると思うんです。1つはかかりつけ医で、全般的に診るものです。そしてもう1つが専門に特化するもの。このような形態が許されるようになったのは最近のことのような気がします。逆に専門クリニックが評価される土壤が育ってきたともいえるでしょう。ここもその1つだと思います。

——入院設備を持つということは考えていませんか。

多田 ここではちょっと無理だと思います。近くの病院や大学病院と連携していますので、入院が必



1階から3階までがクリニックモール。上階は居住施設、隣は大型商業施設と好立地にある。

要な場合は紹介しています。

肛門科に関していうと、さいたま市内には自分のところを除いて2件あり、そのどちらもが入院設備があります。そこと会合を持ちたりしながら意思疎通を図り、連携しています。実際、日帰り手術でない場合は全部そちらに回しています。今年だけでも100人は紹介しています。

提供サービスのコンセプトは無痛・安全・高精度の診療

——専門クリニックではスタッフの質もとくに大きな要素になります。看護師の教育はどのように行っていますか。

多田 クリニカルパスを導入していることと、実際の病院を見学し

に行ってもらいます。あとはこれだけ内視鏡検査を実際に行っていますので、現場でのOJTということになります。そのほかにも内視鏡に関しては消化器内視鏡学会の技師研修などに参加してもらっています。

——医師のレベルも重要な要素になりますが。

多田 うちのコンセプトは、痛がらせずに、しかも安全に高精度の診療をすることです。経鼻胃内視鏡検査でもさっと5分、10分で検査してあげる。大腸内視鏡検査も15分程度でやってあげる。その腕がないような場合は、うちでは務まりません。

——先生ご自身の新しい技術等を身につける時間も必要ですね。

多田 非常勤医師として大学から

来ていただいているのは、診療面だけに限ったことではなく、新しい技術等の情報交換ができる。そういうメリットもあるのです。

——先生のところは胃と大腸と肛門ということで、トータルに診られるのも強みになっているのでしょうか。

多田 痔を心配して大腸の検査を受けられる人もいますし、逆に大腸の検査を受けるんだったら痔も診てほしいという人もいます。大腸の検査をやっている以上は、両方を診られる。それが患者さんも望んでいることだと思います。

——一般に大腸がんの患者さんがすごく増えてきているということですが。

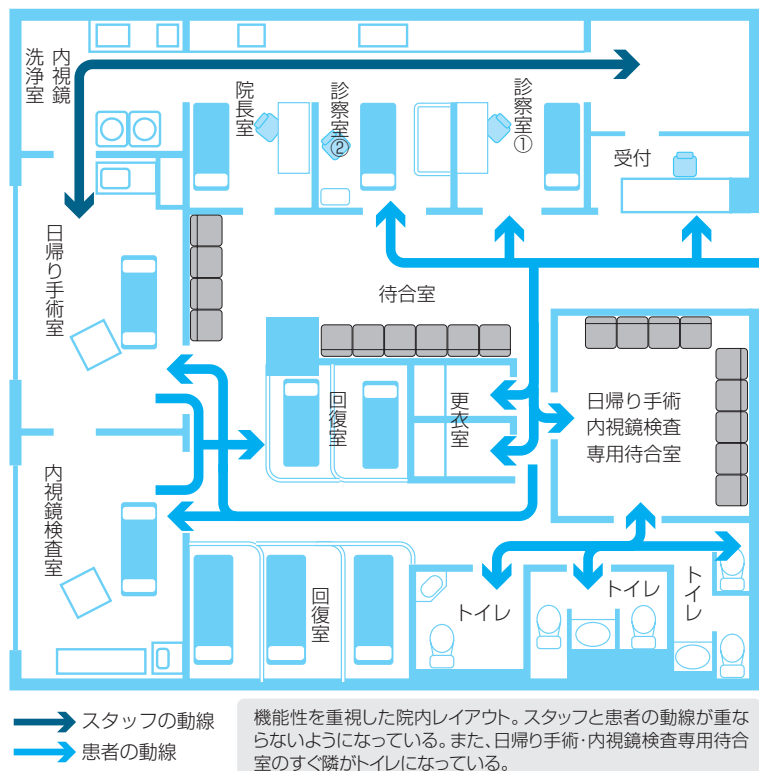
多田 確かに診療していても、その実感があります。これまで内視鏡検査を5,000件弱やっておりますが、胃がんと大腸がんでどちらが多く見つかるかといえば、圧倒的に大腸がんです。大腸がんは年50人ぐらい見つかりますが、同じ件数の検査をしたとしても胃がんは10人程度です。

うちは大腸が専門の分、そういう数値になるのでしょうか、それを差し引いても多いと思います。

——近年は予防ということが注目されています。予防目的で定期的に検査をされる方も増えているのではありませんか。

多田 大腸がん検診を定期的を受けている方は、大幅に死亡率を改善できるわけです。厚生労働省の調査でも、何年かに1度検診を受けている人と受けていない人の、大腸がんによる死亡率は、受けている人が7割低いという結果となっています。それは昔からわかっ

——◎ただともひろ胃腸科肛門科の平面図



ていたわけで、大腸がんが小さいうちに取ってしまえば治る。それがいま、内視鏡検査が普及してきて、現実のものになりつつあるのだと思います。

当院の場合は、ポリープをとって1年経ったのでチェックにいらっしやる方、あるいは思い切って初めて受けてみようという方が中心で、定期的にとという方はまだ少ないですね。都内や横浜などでは多くいらっしやるようですが、このエリアの意識はそこまで高まっていません。

——今後の課題としてはどのようなことがありますか。

多田 現時点で困っているわけはありませんが、検診料の先行きが見えないことです。かなり査定なども厳しくなっていますし、報酬単価自体を一気に引き下げられてしまうこともあり得るわけですね。今後、自由診療の分野をうまく組み合わせていくことも考えなければいけなくなるのでしょいうね。そういう意味では患者の経済的負担が多くなってもやっていける高いレベルの質・サービスを維持していくことが重要だと思います。

他を圧倒する専門性が 専門クリニックには必要

——専門クリニックをこれまでやってこられて、どのような感想をお持ちですか。

多田 同じ内視鏡の検査をやるにしても、当院だったら1日に15件くらいやっているのだから、内視鏡の機器も一番いいものを提供できる。内視鏡の器具にしても全部使

い捨てにできる。あるいは専用の洗浄室を設け毒性のない消毒液で機器の洗浄ができる。こういうことは専門クリニックとして多くの検査を行っているからできることだと思います。

また、単に内視鏡をすればいいという時代ではなく、経鼻胃内視鏡のように痛くなく、快適・安全にというプラスアルファの部分があるのが、いまの医療には求められているのだと思います。単に検査をするのであればこれまでの内視鏡で全く問題ないわけです。

大腸内視鏡にしても、無理矢理押し込んで入れる検査とは違い、高い技術のもと腸管を延ばさずにたたくように挿入するので痛くありません。液を入れてお腹を膨らませて行う手技とは異なるものです。

そういうプラスアルファをどこまで提供できるかが大事なことで、そこに力を注げることも専門クリニックの強みではないかと思っています。

——多田先生のところでは痔の日帰り手術に関しても最新の治療法を取り入れていますね。

多田 ジオンという痔の硬化療法(ALTA法)です。いままでの切って治すのではなく注射で治すもので、3年前にはなかった治療法です。

いままでのように切って治す手術では、どうしても切った痛みや出血が伴いました。ALTA法は痔に注射して硬化させ小さくするのです。そのため患者さんは全く痛がらない。それでいて手術に匹敵する効果があります。日帰り手術も可能になります。やはり高い技術を要しますが、あまり行っている施設も多くないので差別化にもなります。

——当然のことではありますが、専門クリニックが生き残るためには高い技術と最新の設備が必要なのですね。

多田 専門クリニックといっても、専門とは名ばかりのようところもあります。もっと他を圧倒するくらいの専門性を打ち出すことが必要です。そういう意味では経鼻胃内視鏡は圧倒的な差別化ですし、無痛大腸内視鏡も痔の手術もそうです。それを可能とするためには、専門家である以上は、絶えず最新の治療法を取り入れていくように、日々アンテナを張っておくことが重要です。

新しいことをやろうとすると、反対に遭うこともありますが、信念を持って乗り越えていくことが大事なことだと思います。

(平成20年8月29日／構成：本誌編集部 柿崎法夫)

DATA

武蔵浦和メディカルセンター ただともひろ胃腸科肛門科
〒336-0021埼玉県さいたま市南区别所7-2-1-202 TEL048-837-9333

○診療科目 胃腸科・肛門科・外科(大腸内視鏡・経鼻胃内視鏡・痔疾患日帰り手術)
○診療時間 午前 9:00~13:00(土曜・日曜は9:00~12:00)
午後 15:00~17:00(日曜は13:00~17:00)
※休診日-水曜、土曜午後、祝祭日

多田智宏 平成8年東京大学医学部医学科卒業後、同年6月より東京大学医学部附属病院外科、虎の門病院麻酔科、都立多摩老人医療センター外科、東京大学医学部附属病院大腸肛門外科、東葛辻中病院外科を経て、平成18年ただともひろ胃腸科肛門科を開設。
日本外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本大腸肛門学会専門医